

2023 年 2 月 16 日（木） 人権の日の放送

みなさん、おはようございます。ただいまから、人権の日の放送を始めます。今月の担当は 11HR と 12HR です。よろしくお願いします。今回のテーマは「アンネのバラ (Souvenir d'Anne Frank)」です。私たち人権委員が調べたことや考えたこと、感じたことを紹介します。私たちが「アンネのバラ」をなぜ調べようと思ったのか。それは、実は身近なところに、この「アンネのバラ」があったからです。

○高校棟中庭のバラ

高校棟の中庭に「アンネのバラ」があるのを皆さんは知っていますか。このバラの花は変色する性質を持っていて、つぼみのときは赤色で花が開いてくるとオレンジ色に黄色がかかった黄金色になります。そして次第に、花卉の先からサーモンピンクに変色し、さらに濃くなって赤色に近くなります。

○校長先生へのインタビュー

なぜ川島中高の中庭に「アンネのバラ」があるのか、私たちは校長先生にうかがいました。

校長先生は昔のあらたえの記事をもとにお話してくださいました。約 20 年前に川島高校の先生方と保護者の方が研修として広島県福山市にあるホロコースト記念館を訪問したそうです。そこで感銘を受けた先生方と保護者の方がアンネのバラを分けてもらえないか交渉し、バラをいただいたそうです。そして、2002 年 12 月 28 日にホロコースト記念館から贈られてきたバラを当時の生徒・保護者・教職員の手で中庭に植えられました。当時の井上校長は「本校の平和と人権の象徴として大切に育てて欲しい」とあらたえの記事に書かれていました。

校長先生は実際に中庭で撮ったバラの写真を見せてくださり、「このバラを見て、人権や平和、アンネのことを考えてほしい」とおっしゃっていました。

○アンネの生涯について

この「アンネのバラ」はアンネの形見のバラともいわれ、アンネの父オットーにベルギーの園芸家がアンネをしのんで贈られた新種のバラです。皆さん、そもそも「アンネ・フランク」を知っていますか。

アンネ・フランクはドイツ生まれのユダヤ人少女で、皆さんご存じ『アンネの日記』の作者です。彼女が生きた時代のドイツは、ナチス・ドイツと言われるときでした。反ユダヤ主義を掲げるナチスとそれを率いるヒトラーは、ドイツが抱える問題の責任をユダヤ人になすりつけ、迫害を行いました。ナチス政権とその協力者による約 600 万人のユダヤ人（中には 150 万人の子ども）の組織的・国家的な迫害、これを「ホロコースト」と言います。

この迫害から逃れるため、家族みんなでアンネはオランダへと移ります。しかし、第二次世界大戦中、オランダがドイツ軍に占領され、オランダでもユダヤ人に対する迫害が行われました。アンネは家族と隠れ家で過ごすことになります。このとき、アンネ 13 歳の誕生日に日記がプレゼントされたのです。

2 年 1 ヶ月の隠れ家生活の後、ナチスに捕らえられ、収容所に入れられました。そして、1945 年 3 月、アンネは 15 歳 9 ヶ月の生涯をベルゲン・ベルゼン強制収容所で終わりました。隠れ家にはオランダ語で書かれたアンネの日記が遺されており、家族の中で唯一生き延びたアンネの父オットーが、戦争と差別のない世界になってほしいという娘の思いを全世界に伝えるため、『アンネの日記』を出版しました。

○ホロコースト記念館について

ホロコースト記念館は広島県の福山市にあるナチス・ドイツによるホロコーストについての博物館です。第二次世界大戦中、ユダヤ人であるという理由だけで 600 万もの命が奪われました。彼らはいわれのない差別と迫害を受け、ガス室などで無残に虐殺されていったのです。その中には 150 万もの子どもたちが含まれていました。この記念館は、ホロコーストの犠牲となった 150 万の子どもの姿を通して、日本の子どもたちにホロコーストを伝え、ほんとうの平和について学ぶための施設だそうです。

この博物館ができたのは、1971 年にホロコースト記念館の館長の大塚さんとアンネの父オットーさんがある合唱団で出会ったのがきっかけです。出会ってから 2 人は親しくなり、1972 年のクリスマスに 10 株のバラの苗が大塚さんに贈られてきました。それが「アンネのバラ」でした。

1995 年にアンネやオットーさんの平和への願いを受け継いでホロコースト記念館が開館しました。後にアンネのバラ園も造られました。そして、接ぎ木をし、増やした株を、アンネやホロコースト、平和について学びたい学校や団体に贈呈しているそうです。このように、「アンネのバラ」を通して、アンネやオットーさんの平和への思いが届けられています。

○今回の学習を通して

今回、私たちは「アンネのバラ」について調べ、皆さんにアンネの生涯やその歴史、ホロコースト記念館について紹介しました。正直なところ、知らないことばかりでしたし、今回紹介したことはほんの一部でしかありません。アンネ・フランクの生涯やドイツの歴史、ホロコーストについてなど。今回出てきた言葉のどれかだけでもいいので、インターネットや本などで調べてみてください。その歴史や背景を「知ること」は平和や人権を学ぶ上で、とても大切なことだということに私たちは改めて気づきました。

また、「思いを届けること」の大切さも今回の学習で学びました。アンネの思いを伝えようと日記を出版したオットーさん。オットーさんの思いを日本や世界に届けているホロコースト記念館。そして、川島中高の中庭にあるバラも 20 年前の先輩方、先生方から受け継いできたものです。この思いをしっかりと受け取り、自分たちも平和や人権について考え、自分たちのその思いも社会やこれからの未来に届けていしましょう。

今後、中庭にバラが咲いたら、ぜひ実際に自分の目で見て考えてみてください。

○参考文献

ホロコースト記念館 (<https://www.hecjp.org/>)

アンネ・フランクの家 (<https://www.annefrank.org/en/>)

図書室にアンネ・フランクに関する本もあるので、ぜひ読んでみてください。

これで人権の日の放送を終わります。ありがとうございました。